

小金井小学校では、主として以下についての教育研究や実践を推進しつつ成果を得ています。それが本校の特色・強みでもあり、かつ使命として日々研鑽に努めています。

これらの教育実践や研究の成果を積極的に社会に発信しつつ、先駆的な教育モデルの創造を通じて、日本の学校教育における充実と発展に貢献しています。

1. 教育実習・教員養成および学校・授業公開

本校は、日本の教員養成におけるフラッグシップ・ユニバーシティである東京学芸大学の附属学校です。とくに大学キャンパス内にある本校では、毎年多くの教育実習生の指導に当たるとともに（年間約 170 名）、大学・大学院とも連携し、授業参観や授業研究の機会を提供しています。

また、学校インターンシップ・授業ボランティア・学校支援員等でも、多くの学生が児童に直接関わる指導補助の体験を通して初等教育についての学びをより深めています。

さらに、大学構内に所在するという地の利から、大学教員などの研究者、各自治体の教育委員会や官公庁等の教育関係者、他校の研究推進に関わる教諭、海外からの教育使節団などの多くの方々が、伝統的かつ先進的な日本型小学校教育や授業づくりの学校視察の場としても大いに活用いただいています。



2. 教育研究の実験・実証および成果の発信・啓発

児童一人一人がよく考え探究し、学友との対話を交えながら生き生きと学び合う授業づくりをめざして授業研究に取り組んでいます。その成果は、研究発表会及び研究セミナー等において公開しています。加えて、毎年、年 6 回の校内授業研究会及び協議会について公開実施し、個々の教員が教育研究の深化に努めています。

例年発行する研究紀要に加えて、3 年に 1 度実施される研究会については、その取り組み成果を出版することを交えて、現代社会の背景を鑑みた授業づくりの発信及び啓発を積極的に行っています。

<これまでの研究テーマ>

「発展学習」(S40~48) 「豊かな人間を育てる教育課程」(S49~57)

「自ら学ぶ力が育つ学習」(S58~61) 「感じ動き高める子」(S62~H7)

「ともに生きる子どもが育つ学校」(H8~12)

「学ぶ喜びを味わい、学びを生かす子の育成」(H13~15)

- 「実感と創造のある学びをはぐくむー子どもの論理をひろげる授業ー」(H16～18)
- 「求めあい、つなげあう子～『受容』から広がる学びの姿～」(H19～20)
- 「求めあい、つなげ合い、学び合う子」(H21～22)
- 「深く考える子ー子供の考えが深まる授業づくりー」(H23)
- 「理解を深め、物語れる力をはぐくむー実感のある学びを生み出す学習環境デザイン」(H24～25)
- 「理解を深め、知を創造する子の育成ー子どもの思考を媒介する『メディア』に着目してー」(H26～28)
- 「『こえる学び』を生む学習環境デザインの追究」(H29～R1)
- 「『こえる学び』の拡張」(R2～4)
- 「学びを創る」(R5～R7)



3. 「生きる力」「非認知的能力」を育む大自然での宿泊生活体験

本校における教育活動の大きな特徴として、豊かな自然環境の中での宿泊体験活動の長期実施が挙げられます。山間で行われる野外活動が中心となる一宇荘生活（林間学校／長野県茅野市）、大海原での遠泳活動をする至楽荘生活（臨海学校／千葉県鵜原）について、3年生から始まり卒業するまでにトータル21泊27日の活動を行います。この2つの荘生活での宿泊体験活動は、戦前から今日まで継承されたきた約80年という長い歴史があり、本校における伝統的活動となります。

この山と海の大自然を体感しながら、主体的かつ仲間との協働生活をする多様な体験を通して、“自然・仲間・自己”への感性や理解を促進し、知・徳・体・情の全人的な力、すなわち「生きる力」を醸成します。また、本校において実践されるような自然の中での豊かな体験活動は、生涯にわたって充実した人生を形成するうえで必要とされる「非認知的能力」を育むためにも重要なことが実証されています。

本校の教育目標である「明るく思いやりのある子」と「強くたくましい子」の育成は、一宇荘と至楽荘での生活を通して成立しています。そのため、両荘生活での豊かな自然環境の中で行われる集団宿泊生活は、本校の基幹の教育活動として実施しています。



4. ICT を活用した教育・学校運営・研究

本校では、社会背景や情勢を鑑みつつ、つねに新しいことにも挑戦してきました。その1つとして、積極的にICT（情報通信技術）を活用した授業・学校運営・研究に取り組んでいます。生成AIも含め、ICTを使った効果的な授業方法や、授業のみならず事務業務における効率化にも積極的に着手しています。職員会議はコロナ禍以降も全てMicrosoft Teamsで実施し、ペーパーレス化や在宅勤務等を推進しています。

研究としては、2020年度より教科等部会として「ICT部会」が発足しました。「ICT×インクルーシブ教育」をテーマに、文部科学省の各種研究事業の指定校として、様々な実践研究に取り組み「学びに困難を抱えている児童への支援が、特に困難を抱えていない児童にとっても好影響を及ぼし、一人一人の個性が尊重され、多様性が認められるインクルーシブな環境における教育」の実現を目指しています。

今後も、ICTを教育現場に有効的に導入することで、学校教育やその運営、教職員の職場環境や働き方の改善を目指した先端的な取り組みにも挑戦していきます。

